

移動式クレーンを起因物とする墜落・転落の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生月	発生時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	5	5 ～ 6	移動式クレーンで荷役作業を行うため、港に到着してから約5分後にクレーン後方に倒れているところを他の作業員に発見された。	80409	10 ～ 29
1999	7	23 ～ 24	駅構内のご線橋新設工事において、500トンの移動式トラッククレーンの高さ約3メートルのところから墜落した。	30105	10 ～ 29
1999	7	7 ～ 8	配送先の石材置き場において、車両積載型クレーン(13.5t)の荷台から積載した石材10個(1個700～800kg)の荷降ろし作業中に近接する電話線にジブを接触させてしまったため、クレーンのジブ上から電話線の破損状況を確認して墜落した。	40301	10 ～ 29
1999	9	10 ～ 11	吊上げ荷重35tの移動式クレーン(トラス構造)のジブ先端に上がったときに、約16m下の路面に墜落した。	50101	30 ～ 49
1999	12	16 ～ 17	りんご農家より依頼のあった肥料(フレキシブルコンテナ、重さ約800kg)を積載型トラッククレーン(つり上げ荷重2.52t)で降ろす下ろす作業中、トラッククレーンが畑に転落し、その下敷きになった。	170209	1～ 9
2000	7	14 ～ 15	木造家屋建設工事用の柱材等を運ぶため吊り上げ荷重2.93tの移動式クレーンに製材した12cm角の柱材を5段積みし、その上に垂木等を積み重ねようとしていたときに、約1.9mの高さから垂木等とともに墜落した。	10401	1～ 9
		18	フローチングクレーンによる高潮対策工事の作業を終えて帰港したのち、見		30

2000	6	～ 19	通しのきくクレーン後部カウンターに登り船と埠頭の位置を確認して4箇所のウインチを操作する各作業員に合図を送っていたときに、足を踏み外して 2. 95m下の甲板上に墜落した。	30111	～ 49
2002	1	～ 15	資材置場において、搬送されてきた機器スクラップを車輛積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93 t）で荷降ろしするため、荷台上で作業中に荷台後部のあおりに引っ掛かり、荷台（高さ1.1m）から転落した。	11301	～ 49
2002	4	～ 15	つり上げ荷重2.75 tのクローラクレーンで、約5m四方の開口部から地下の構台に使用していた溝型鋼の廃材（質量約1.1 t）を地上へつり上げる作業中に1階床の梁部の鉄筋1本が約1.7m張出していたので、それをかわすためクレーンのブームを伸ばして伏せていたところ、クレーンが転倒し開口部からクローラクレーンとともに地下1階へ墜落（5.1m）した。	30201	～ 49
2003	7	～ 16	河口の護岸工事において、川岸において製作したバラスを仮置きするためドラグ・ショベルによりバラスをつって旋回したときに、川岸から転落して放り出され、水中において川底と機体との間にはさまれた。	30107	～ 29
2003	11	23 ～ 24	工事受注に向けたデモンストレーションのため浮きクレーンなど4隻を回航し、作業完了後に浮きクレーン船内で4名が缶ビール等を飲みながら食事をして就寝したが、途中で起床した者が小用をたしに行きもどらないので探したところ海上に浮いていた。	30111	～ 29
2004	2	～ 9	法面（のりめん）工事において、フリーフレーム用アンカー作業中、クローラクレーン（つり上げ荷重80 t）で作業架台を約20mつり上げ、作業者の3名は法面（のりめん）上部から架台に移るため親綱にロリップを取り付け順次作業架台に移動し、最後の作業者が架台に移ったとき、クローラクレーンが転倒し作業架台とともに作業者が墜落した。	30108	～ 29
2004	2	～ 9	法面（のりめん）工事において、フリーフレーム用アンカー作業中、クローラクレーン（つり上げ荷重80 t）で作業架台を約20mつり上げ、作業者の3名は法面（のりめん）上部から架台に移るため親綱にロリップを取り付け順次作業架台に移動し、最後の作業者が架台に移ったとき、クローラクレーンが転倒し作業架台とともに作業者が墜落した。	30108	～ 29

2004	6	9 ～ 10	木材をトラッククレーンの荷台から降ろすため、荷の最上部に昇り、荷の落下防止の鎖を外した後、荷からトラックの荷台後部に設置されている操作台へ乗り移ろうとしたとき、足を踏み外し約3m下へ墜落した。	40301	1～ 9
2005	8	17 ～ 18	山道上で小型移動式クレーン移動させていたところ、小型移動式クレーンがスリップし、小型移動式クレーンの脇で補助していた被災者に激突した。	30209	1～ 9
2005	6	15 ～ 16	車両積載形トラッククレーンに鋼管2本を積みワイヤロープで緊結した後、荷台を歩いて運転席に向かう途中、体のバランスを崩して1m下のコンクリート床に墜落した。	40301	50 ～ 99
2005	8	14 ～ 15	小型クローラクレーンで勾配が26度の坂道を登坂中、20cmの段差を乗り越えようとしたところクレーン前部が持ち上がった状態になり、登りきれずにクレーンが横転し、運転していた被災者がクレーン後部に挟まれた。	30309	1～ 9
2005	12	15 ～ 16	つり上げ荷重230トンのクローラクレーンの組立て・試運転を行っていたところ、移動式クレーンがカウンターウェイト側に横転し、運転席横の歩廊で組立ての指導を行っていた被災者が12m下の地面に墜落した。	30105	50 ～ 99
2005	10	16 ～ 17	車両積載形トラッククレーンを後退させたところ、起こしていたジブが建屋の出入り口のシャッターの収納箱に当たったため、ジブの上へ乗り、破損状況の確認中、高さ3mのジブの上からコンクリート床に墜落した。	30209	1～ 9
2006	9	15 ～ 16	貸与を受けていた小型移動式クレーン（重量1.2t）を貸与者に返却するため、貨物自動車に積載して重機置場へ被災者1人で搬送し、貨物自動車から道板を使用して地上に降ろしていたところ、当該移動式クレーンがバランスを崩し転倒し、被災者はその下敷きになった。	30301	10 ～ 29
2007	3	9 ～ 10	電柱設置関連工事において、電柱設置の支障となる雑木林の伐採作業後、枝切り木の束を小型移動式クレーン積載形トラックに積み込むため、被災者が荷台の荷の上（地上高2m）で、クレーンを右手で無線操作し、左手でつり荷を押さえようとしたところ、バランスを崩して地上高2.86mの挿し枠上部（コンパネ）を越えて、仰向けの状態で道路へ墜落した。	30301	1～ 9

2007	8	8 ～ 9	基礎型枠の資材を小型移動式クレーンで積み下ろす準備をしていた被災者が、荷台後部より墜落した。	30201	10 ～ 29
2007	4	9 ～ 10	車両積載形トラッククレーン（4.9t積、2.93tつり）で木造住宅建築工事現場へ材木を運び、同クレーンで荷台の中ほどに積んできた約2mの材木の束をつり上げたところ、馬かけ状態（荷を運転席後部の枠にかけて積んだ状態）の木材（長さ7.9m、重量約0.2t）に当たりその木材がアウトリガー（高さ1.1m）上でクレーンを操作中の被災者側へ落下した。被災者はそれを避けようとしてアウトリガー上から墜落した。	40301	30 ～ 49
2007	1	10 ～ 11	高速道路工事において、25tラフタークレーンのオペレーターである被災者は、つり降ろす予定であったドラグ・ショベルが修理中であったために高速道路橋上にクレーンを停車させて待機していた。被災者は、待機時間中にクレーンの車体上に昇り、補助ジブのシーブに油をさす作業をしていたところ、バランスを崩し、クレーンから落下し、道路橋の欄干を乗り越え、8m下の地面に墜落した。	30106	50 ～ 99
2008	8	13 ～ 14	オペレーター付25tの移動式クレーンを用いて3名と事業主で木の伐採作業を行っていた。作業は、クレーンの主巻で作業台をワイヤロープ4本でつり、チェーンソーにて伐採した3本の木を補巻でつる作業であった。ジブを起伏して伐採した木を移動させていた時、伐採した木が作業台にあたり、作業台が傾いたため作業台にいた作業者が8m下に転落した。	60209	1～ 9
2008	11	15 ～ 16	リフティングマグネットを装着したスクラップ仕様の移動式クレーンを運転してスクラップ荷のつり作業終了後、運転席から出て、運転席脇の高さ2.35mの昇降用ステップに足を掛けたところ、ステップ踏み面を踏み外して転落した。	80109	10 ～ 29
2008	1	15 ～ 16	道路上でクレーン機能付き車両系建設機械を用いて鉄板（重量1.6t）をつり上げて旋回したところ、同機械が転倒して川（深さ2.85m）に転落した。そのはずみで被災者が車外へ投げ出されて車体にはさまれ死亡した。	30199	1～ 9
			建築工事現場において、移動式クレーンの運転者（運送会社の作業員）が、		

2008	1	8 ～ 9	荷台のあおり上に立って玉掛け作業をしていた。現場の二次下請の作業者が、同じ荷台で別の荷を玉掛けしてタワークレーンでつり上げ、地切り作業を行っていたとき、積荷の一部が崩れたので、その荷を避けようとした移動式クレーンの運転者があおりから地面に転落した。さらに、崩れた荷が転落した当該運転者に激突した。	40301	1～ 9
2009	12	14 ～ 15	揚重作業の現場に向かうため、市道と現場を結ぶスロープ状の私道に乗り入れたところ、スロープの路肩が崩壊して移動式クレーンとともに被災者が転落した。	80409	10 ～ 29
2009	5	14 ～ 15	祭りの片付け作業（神社境内入口に立てたのぼり旗の撤去作業）において、ホイールクレーン（つり上げ荷重26t）を使い、のぼり旗木製支柱を倒そうとしたところ、クレーンジブ先端にのぼり旗が引っ掛かったため、クレーン運転手がジブ（傾斜約51度）を上ったところ、高さ約11m付近のクレーンジブから墜落した。	30106	1～ 9
2010	11	8 ～ 9	港内において、車両積載型トラッククレーンの荷台上において側面に停船させた3m下方の船上へ網を積み込む作業を行っていたところ、当該荷台上より船上に墜落したもの。墜落防止措置はなく、保護帽を着用していなかった。	70201	10 ～ 29
2010	12	8 ～ 9	社屋前の下倉庫で現場用資材をクレーン搭載トラックの車荷台に積み込みし、被災者を荷台に乗せたまま上倉庫まで移動するため、市道に出て車両をバックさせていたが、道幅が狭くバックがうまくいかず、運転者が方向転換させようと前進させた際にバランスを崩して被災者が荷台上から転落し、右側後輪に轢かれた。	30199	1～ 9
2012	10	15 ～ 16	被災者はクレーン作業終了後、傾斜した路面に駐車しているホイールクレーンを撤収しようと、駐車用ブレーキをかけないまま、車外の車体左側側面でアウトリガーの格納操作中、当該クレーンが路面を逸走した。被災者は一旦運転席にしがみつき、その後下の小段に飛び降りたところ、当該クレーンが被災者の上に転落し下敷きとなった。	30199	10 ～ 29
			移動式クレーンを現場に向けて林道を走行させていたところ、斜面において		

2012	6	9 ～ 10	移動式クレーンが横転しそうになったことからエンジンを切り、横転する側に被災者他1名で支えに入った。しかし、支え切れずに、逃げ遅れた被災者が移動式クレーンとともに転落し、移動式クレーンの下敷きとなって死亡した。	30209	1～ 9
2012	10	16 ～ 17	橋台の基礎である深礎杭（直径2.5m、深さ8m）の建設工事において、深礎杭工事の掘削で発生した土石（ズリ）を鋼製のバケットに入れて、積載型移動式クレーン（吊上げ荷重2.9t）により吊上げ、地上の坑口付近に仮置きしていた。被災者は積載型移動式クレーンを運転し、当該バケットを5tダンプトラックの荷台に移動させる際、突然当該移動式クレーンが転倒し、20m下の崖に転落した。	30105	10 ～ 29
2013	7	14 ～ 15	被災者は、道路拡幅工事現場において、ドラグ・ショベル（機体重量5.5t、クレーンアタッチメント付吊上げ荷重1.7t）を用いて、敷き鉄板（重さ約1.5t）をつり上げ、アームを旋回させたところ、ドラグ・ショベルが転倒した。旋回場所が堤防のきわであったため、ドラグショベルは約5m下の川へ屋根側から転落し、キャビンが潰されことから脱出できず溺水した（川の深さ、約0.3m）。	30106	10 ～ 29
2013	1	9 ～ 10	被災者は、建売住宅（3棟）の新築工事現場において、当該現場の前面道路にトラッククレーンを止め、現場手前の仮置場に土台材料を荷降しする作業を行っていた。玉掛け作業及び荷降ろし作業は、被災者が一人で行っていた。材料の一部の荷降しを終え、再び荷台上で、玉掛け用の繊維ロープを材料にかけていたところ、何らかの原因で2.4m下の道路上に墜落した。	40301	10 ～ 29
2013	4	9 ～ 10	河川護岸改修工事現場で、川沿いの道路に並べて敷いていた敷鉄板（1枚約800kg）を撤去するため、被災者運転のクレーン機能付き（0.9t吊）ドラグショベルで鉄板1枚を吊上げ、鉄板が川の上を通るように旋回していたところ、ドラグショベルごと川に転落し、被災者はドラグショベルの下敷きになった。	30199	1～ 9
2013	8	8 ～	仮設道路（幅約4メートル、勾配約14%）を後進中の車両積載形トラッククレーンが法肩から脱輪して約5m下に転落した際、助手席から車外に投げ	30108	10 ～

		9	出された被災者は、車両積載形トラッククレーンの下敷きになった。		29
2013	4	7 ～ 8	被災者は、杉の玉切材（3～4m）の荷積み作業にて、玉切材をワイヤロープで固定しようと積載型の移動式クレーン荷台に積み上げた玉切材の上に 乗ったところ、2.6m下の地面に墜落した。	60201	1～ 9
2013	6	8 ～ 9	長さ3mから4mの杉の間伐材（玉切材）をグラップルを使用してトラッククレーンの荷台に積み込み、材が落下しないように荷締め作業を行うため、トラッククレーン荷台に積み込んだ材の上（高さ3m）に上ったところ、何らかの原因で地面に墜落した。尚、周囲で作業を行っていた労働者もいたが、被災者の墜落を目撃した者はいない。また、墜落時に墜落時保護用の保護帽は着用していた。	60201	1～ 9
2013	6	9 ～ 10	被災者は、回収した産業廃棄物（電線くず）を、金属とプラスチックに分離する作業場において、プラスチックが入ったフレコンバックを積載型小型移動式クレーンで吊り上げ荷積みする作業を行っていた際、当該クレーンの吊りフックに掛けられたフレコンバックの吊り紐を外す作業を行っていたところ、当該クレーンの荷台上又はフレコンバック上から作業場のコンクリート床上に墜落した。尚、被災者は、保護帽を着用していなかった。	80109	1～ 9
2014	12	11 ～ 12	事業場の資材置き場にて、積載型トラッククレーンの荷台上で足場資材を下ろす作業中、バランスを崩し、荷台に平積みされた足場板上から地面に転落した。	30209	1～ 9
2014	6	15 ～ 16	店舗看板の張替え作業の際、被災者ら2名は、トラッククレーンのジブ先端に取付けられた搭乗設備に乗り、作業を行っていたところ、搭乗設備と取付け治具の溶接部が破断し、約6mの高さから搭乗設備と共にアスファルト上に墜落した。	30209	1～ 9
2014	6	15 ～ 16	店舗看板の張替え作業の際、被災者ら2名は、トラッククレーンのジブ先端に取付けられた搭乗設備に乗り、作業を行っていたところ、搭乗設備と取付け治具の溶接部が破断し、約6mの高さから搭乗設備と共にアスファルト上に墜落した。	30209	1～ 9

2014	3	13 ～ 14	被災者は、橋脚上に構築された吊足場を解体するため、積載形トラッククレーンから吊り下げられたバケットを橋脚上に載せ、バケット内に足場の部材等を積み込んでいた。トラッククレーンを無線操作し、バケットが橋脚から離れたところ、バケットが揺れ、トラッククレーンが横転。トラッククレーンを横転していた被災者が死亡した。	30105	50 ～ 99
2014	3	14 ～ 15	住宅用建材（外構用の化粧コンクリートブロック）の配送を、3 t 積みトラッククレーンで行っていた。現場にて、荷下ろしのため玉掛けワイヤーを積荷に掛けていたところ、大雨のため足元が滑り、荷台（高さ約70 cm）から転落した。	40301	30 ～ 49
2014	2	9 ～ 10	護岸工事にて、土手に擁壁を構築するため、コンクリート打設作業を行っていた。作業は、クレーン仕様付車両系建設機械を使用し、コンクリート打設用のホッパーを吊り上げて起伏および旋回し、打設位置にホッパーを移動し打設していた。約10メートルの打設が終了し、次のコンクリート打設のため旋回していたところ車両が転倒し、運転者と車両が川に転落した。	30107	50 ～ 99
2014	1	13 ～ 14	脱臭用活性炭容器（7.9トン）の設置作業を移動式クレーンを用いて行っていたところ、単管パイプ上で位置調整の作業を行っていた被災者側に、吊っていた当該容器が振れ、高さ約3.5 m下に墜落した。	30302	1～ 9
2015	2	10 ～ 11	町道の待避所を建設する道路改良工事において、移動式クレーン（16 t 吊りラフテレーンクレーン）を用いて、L型擁壁（PC製、重量3.6 t）を吊り上げて旋回した後、移動式クレーンごと道路下（谷側）に転落し、運転席が車両の下敷きとなり、移動式クレーンを運転していた被災者が死亡した。	30106	10 ～ 29
2015	9	14 ～ 15	被災者は、クレーン機能付きドラグ・ショベル（つり上げ荷重2.9 t、クレーンモードへの切り替え状況は不明）を用いて、大型土嚢（0.45 m ³ ）を移設する作業中、2つの大型土嚢を吊り上げ、左に旋回した際に、ドラグショベルがバランスを崩し河川敷内に転落し、転落時にオペレーターをしていた被災者が運転席外へ投げ出され、ドラグショベルの下敷きになり死亡したもの。	30107	10 ～ 29

2015	5	8 ~ 9	木造住宅新築工事現場において、梁の組立作業中、高さ約4メートルの梁上で移動式クレーンによりつり上げられた梁の玉外し作業をしていたところ、玉外し作業が終わる前にフックが巻上げられたため、その反動でバランスをくずして、梁上から墜落した。即日病院に搬送され、意識不明の状態が続いていたが、平成27年12月16日に死亡した。	30202	1~ 9
2016	11	9 ~ 10	移動式クレーンで鉄骨をつり上げたところ、つり上げた鉄骨が積み重ねていた隣の鉄骨に接触し、積み重ねられていた鉄骨の上にはいた被災者とともに落下した。被災者は鉄骨と鉄骨との間にはさまれ、死亡した。	11209	1~ 9
2016	11	11 ~ 12	急斜面の維持管理工事において、作業員が斜面上で伐木した樹木を移動式クレーン（つり上げ荷重35t）の補巻きワイヤーロープのフックに玉掛けして地上に降ろす作業に当たって、同クレーンの運転手に合図を送るため主巻きワイヤーロープのフックに玉掛けした搬器に搭乗していた被災者が高さ約13mから搬器と共に落下して死亡した。	30201	30 ~ 49
2016	8	8 ~ 9	林道上で生コン車からコンクリートバケット内に生コンを受け入れた後、クレーン仕様のドラグ・ショベル（つり上げ荷重0.9t）のフック部分に玉掛ワイヤーロープを掛けた状態でコンクリートバケット（総重量0.49~0.51トン）をつり上げ、林道谷側に向けて旋回を行ったところドラグ・ショベルが谷側に傾き、林道上から4.5m下の床堀面にドラグ・ショベルが転落し、運転手（被災者）が投げ出されて死亡した。	30106	1~ 9
2016	5	16 ~ 17	当該事業場工場内に停車している最大積載量3,000kgのトラッククレーンの側に仰向けで倒れていた被災者を工場内にいた同僚が発見した。	150102	10 ~ 29
2016	5	14 ~ 15	水門の耐震補強工事において、水門側部の戸当りの撤去作業中、切断した戸当りの一部（約1.7tのコンクリート塊）にアンカーボルトを打ち込み、クレーンを用いて吊り上げ、旋回しようとした際に、アンカーボルトが抜け、コンクリート塊が足場を直撃し、足場頂部から約16m下に落下、落下したコンクリート塊により、足場作業床が外れ開口部となった箇所から被災者1名が約12m下に墜落し死亡、他1名が足を打撲した。	30107	10 ~ 29

2017	5	8 ～ 9	被災者が、建設現場に仮設足場材の納品に赴き、移動式クレーンの荷台上で、移動式クレーンの操作を行いながら、荷下ろし作業を行っていた。移動式クレーン操作中に、吊り荷に背を向ける形で現場労働者と話しをしていたところ、荷振れを起こした吊り荷が被災者の背中に当たり、被災者が地面に墜落した。被災者はその後、入院中に病院で容態が急変し2ヶ月後に死亡した。	40301	10 ～ 29
2017	5	16 ～ 17	現場周辺の木を伐採するため、チェーンソーを持った被災者らを搬器に載せクレーンで吊り上げた後、クレーンから遠方に到達させるために徐々にジブを倒していったところ、作業半径が約28メートルに差し掛かった時点で突然ジブが縮み、そのため搬器が落下した。	30309	1～ 9
2017	5	16 ～ 17	現場周辺の木を伐採するため、チェーンソーを持った被災者らを搬器に載せクレーンで吊り上げた後、クレーンから遠方に到達させるために徐々にジブを倒していったところ、作業半径が約28メートルに差し掛かった時点で突然ジブが縮み、そのため搬器が落下した。	30309	1～ 9
2017	5	16 ～ 17	足場仮設材の引取りに、移動式クレーン（トラッククレーン）で現場に入場した被災者が、トラッククレーンに荷の積み込みを終えたあと、積み込まれた荷の上（地上より高さ2m65cm）で作業を行っていたところ、荷の上から地上面へ墜落した。	40302	10 ～ 29
2017	4	8 ～ 9	被災者は、最大積載量10トンの車両積載形トラッククレーンに住宅用資材を積載し、新築住宅工事現場に向かったが、現場の作業場所が狭隘であったため、近くにある駐車場において、同僚1名と最大積載量3.75トンの車両積載形トラッククレーンに当該資材を積み替える作業を行っていた。作業を開始してまもなく、近くを通った女性がうつ伏せで倒れていた被災者を発見し、救急搬送されたが、翌日死亡した。	40301	10 ～ 29
2017	4	8 ～	被災者は工場内岸壁付近で移動式クレーン（60t）を後退させたところ、左後輪が岸壁外側へ脱輪し、被災者が乗車した状態で下方の海に転落した。被災者は病院に搬送され、死亡が確認された。岸壁部分はコンクリート構造の段差があり、被災者が脱輪時に付近の作業者に「コンクリートを見間違え	30302	30 ～

		9	た」と申し立てていることから、上段と下段のコンクリート面を同じ平面と勘違いし脱輪したものと推測される。		49
2018	11	8 ~ 9	被災者は、移動式クレーンのジブの先に取り付けられたカゴと呼ばれるアルミ製の搭乗設備に乗り、リモコンで操作しながら、高さ約7m、胸高直径40cmのケヤキの木の剪定作業を行っていたが、何らかの理由でカゴから地上に墜落した。災害発生時、地上からカゴの作業床までの高さは6.4mで、被災者は安全帯、ヘルメットを着用していなかった。	60101	1~ 9
2018	10	14 ~ 15	被災者は、車両積載型クレーン（つり上げ荷重2.93t）を運転して、同クレーンの荷台に積んだポプラの玉切り木（重量2.44t、長さ350cm、直径は最も太い箇所101cm）をつり上げ、続いて地面に下ろそうとしたところ、同クレーンが転倒して斜面から転落した。被災者は別の労働者によって斜面の下で同クレーンの横に倒れているのを発見され病院に搬送されたが、胸部外傷等により死亡が確認された。	30107	10 ~ 29
2018	7	12 ~ 13	被災者が、クレーン機能付きドラグ・ショベルを運転していた際、当該ドラグ・ショベルが転落した。	30106	30 ~ 49
2018	4	8 ~ 9	被災者が一人で坂になっている道路に停めていたユニック車のクレーンのブームを伸ばしていたところエンストしたため、エンジンをかけた。その後しばらく経っても被災者の姿が見えなかったため、他の労働者が土手の下を見たところ、約10メートル下で俯せで倒れていた。道路から土手へ転落し、頭部等を強打したと思われる、救急車を呼び病院に搬送後、死亡した。	80209	10 ~ 29
2018	4	10 ~ 11	移動式クレーンの整備で、ブーム上のグリス穴にグリスを指すために、車体に設けられた地上から高さ2.7mの位置にあるステップを登っていたところ、足を滑らせ、墜落し、頭部を負傷した。救急搬送され、治療を受けたが、死亡した。	30309	10 ~ 29
			クレーン機能付きドラグ・ショベルを別の現場に移動するために、取替用バ		

2018	1	14 ～ 15	ケットを吊りながら、所定の場所まで敷鉄板で養生された農道（傾斜8度の下り坂）を走行中、当該ドラグ・ショベルがスリップして逸走し、田んぼに転落しかけたため、運転席から飛び降りたところに、当該ドラグ・ショベルが転落し、下敷きとなった。	30309	10 ～ 29
2019	10	8 ～ 10	被災者は、積載型トラッククレーン（2.9t）のジブ先端に取り付けられた搭乗設備上で伐採された木の回収作業を行っていた。自らクレーンをリモコンで操作し、立木に挟まった木にベルトスリングを取り付けて当該クレーンのフックにかけて引っ張っていたところ、挟まった木が取れたことで張力が抜け、その反動で、墜落制止器具を着用していなかった被災者が搭乗設備から投げ出され、高さ約8.8m下に墜落した。	30309	100 ～ 299
2019	4	8 ～ 10	資材置き場において、杉の木を伐採する前処理として枝の剪定を、専用の搭乗設備を装着した移動式クレーン（定格荷重2.9トン）を使って行っていた。作業がひと段落し、地上に降りるため、被災者がリモコンを操作し下降していたときに、枝が被災者にあたり、被災者が搭乗設備から約10メートル下に墜落したものの。	30199	10 ～ 29
2019	4	8 ～ 10	高さ約24mの作業構台上で、作業員2名が仮溶接した搬出入用架台のクランプ止めした単管に安全帯のフックをかけ、玉掛用のシャックルを外す作業を行っていたところ、突然、移動式クレーンの補ジブが跳ね上がり、同架台も仮溶接部分が外れて跳ね上がった。被災者2名も、安全帯のフックがかかっていたため同架台とともに跳ね上がり、移動式クレーンの主ジブに激突した。その衝撃で単管が外れ、2名は地上に墜落し、死亡した。	30302	10 ～ 29
2019	4	8 ～ 10	高さ約24mの作業構台上で、作業員2名が仮溶接した搬出入用架台のクランプ止めした単管に安全帯のフックをかけ、玉掛用のシャックルを外す作業を行っていたところ、突然、移動式クレーンの補ジブが跳ね上がり、同架台も仮溶接部分が外れて跳ね上がった。被災者2名も、安全帯のフックがかかっていたため同架台とともに跳ね上がり、移動式クレーンの主ジブに激突した。その衝撃で単管が外れ、2名は地上に墜落し、死亡した。	30302	10 ～ 29
			被災者が搭乗する移動式クレーンが、作業構台から7メートル下に墜落した		

2020	9	10 ～ 12	もの。被災者は70トンクローラクレーンを使って、作業構台から、7メートル下の地下部分に、鉄筋等を下ろしていた。休憩中に当該クレーンがゆっくりと構台端部に動き出し、手すりをなぎ倒した後、そのまま被災者ごと墜落した。その後、搬送先の病院にて3日後に死亡した。	30201	10 ～ 29
2020	4	10 ～ 12	法面工事現場において、被災者がチェーンソーを使用し、トラック（最大積載量3.5t）の荷台上で処分する杉の伐倒木の玉切り作業を行うため、移動式クレーン（クレーン仕様のドラグ・ショベル、定格荷重2.9t）によりつり上げた伐倒木を当該荷台上に移動させたところ荷振れが生じ、被災者がそれを抑えようと伐倒木を抱え込んだ際にバランスを崩し、伐倒木とともに地面に墜落して下敷きとなった。	30108	10 ～ 29
2020	3	12 ～ 14	民間住宅新築工事現場において、車両積載形トラッククレーンを用いて型枠資材撤去作業中に、当該トラッククレーンの荷台でリモコン操作をしていた被災者が荷台から墜落したものの。	30201	10 ～ 29
2020	2	6 ～ 8	被災者はユニック車にLPガスボンベを積んで工場に入場していたが、午前、当該ユニック車の足元で血を流して倒れているところを別の出入りの業者によって発見された。その後病院へ搬送されるも、急性硬膜下血腫により死亡した。	40301	1～ 9
2020	1	8 ～ 10	銀行研修所屋根・防水改修工事において、ホイールクレーンの補助ジブの組立作業を一人で行っていた被災者（オペ付きリースとして入場）が、同クレーン車体東側で頭部から出血した状態で倒れていたところを発見されたもの。被災者は災害発生後から意識不明の状態が続いたが、後日死亡した。	30209	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html